

[88] 文學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2339167>

出版情報：文學研究. 88, 1991-03-30. Faculty of Literature, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

彙報

学会・研究室行事

仏文学関係

○ステラ第八号一九九〇年九月

Etude sur le traitement de la Bible dans les tragédies sacrées de Racin. M. YANAGI

L' idée des deux réalités chez Nathalie Sarraute K. SAITO

L' idée du bonheur chez Rousseau Y. KURIHARA

与格の拡大用法と二重主題構文

—— 統語構造と談話構造 —— 井口 容子

フランシス・ボンジュ試論

—— オブジェとの出会い —— 飯田 伸二

『三つの物語』における色彩とことば

マラルメと音楽 大橋 絵理

—— 初期作品における音楽と概念 —— 小野 晶子

アニーとクロディーヌ

—— クロディーヌ・シリーズの二人のヒロイン —— 小野 晶子

『放蕩息子の帰宅』における象徴と解釈の問題

小野 晶子

—— エリック・マルティイへの反論 —— 吉井 亮雄
○一九九〇年日本フランス語フランス文学会大会
(平成二年六月十日 於中央大学)

フローベールの『三つの物語』

—— 固有名詞の役割 —— 大橋 絵理

コレットの『ミツ』

フランシス・ボンジュにおける《読者》の概念(第八回)

九州大学フランス語フランス文学研究会と同一内容

飯田 伸二

○Etudes de Langue et Littérature Françaises N 56

(Société Japonaise de Langue et Littérature Françaises, 1990) Les figures du «lecteur» dans les oeuvres de F. Ponge

S. HIDA

○フランス語フランス文学研究N 57

(日本フランス語フランス文学会、一九九〇年発行)

コレットの『ミツ』

—— シェリにいたる転機の作品 —— 小野 晶子

○第三十七回九州フランス文学会

(平成二年十二月一日、於西南学院大学)

『戦争』におけるグロテスク

ラシーヌの宗教劇における人物設定 木下 親樹

コレットにおける再会のテーマ 柳 光子

『贖金つかい』(ロンドン草稿) 校訂版の批判的検討 小野 晶子

吉井 亮雄

J. C. BOUVIER

文学科講義題目

平成二年度第一学期講義題目

仏語学

演習 フランス語学会話

Dissertation

セヴィニエ夫人「書簡」 (教養部)

仏文学

演習 シャンフルリー「シャン・カイユ」 西岡 教授

シムノン「小説の時代」

バルザック「パルムの僧院」批評

特研

演習 テクスト分析の諸問題

特研 フランス短編小説集

特研

演習 ラ・フォンテーヌ「寓話」

ラ・フォンテーヌ「寓話」

サンド「モーブラ」 (九州産業大学)

平成二年度第二学期講義題目

仏語学

演習 フランス語会話

Dissertation

仏語中級文法

演習

シラルダン「虚栄の館」

特講

ペカン「幻視者バルザック」

特研

バルザックの地方生活情景

演習

フランス小説史

特研

フランス詩史

演習

テクスト分析

特研

フランス詩

演習

ラ・ブリュイエール「人さまさま」

特研

現代思想のアンソロジー (教養部)

演習

コルネイユ「シンナ」 (教養部)

特講

中国文学研究室

演習

文学科講義題目

西岡 教授

吉井 助教授

ブーヴィエ 教授

阿尾 助教授
羽賀 教授

平成二年度第一学期 (平成二年四月～九月)

中国語学

演習

古代漢語

特講

中古音の音韻論

演習

揚貴妃文学史研究

特研

中国文学 (北九州大学)

演習

杜詩詳註

特研

四庫全書総目 (清人文集)

張 教師

佐藤 教授

竹村 助教授

山崎 教授

演習 中国文学批評史 張 教師

◇ 陸機『文賦』研究

◇ 明清小品選

◇ 「新時期文学」の諸相(言語文化部)

特研 中国語学・中国文学の諸問題

特別 中国語学・中国文学の諸問題

平成二年度第二学期(平成二年十月～三月)

中国語学

演習 古代漢語

◇ 中古音の音韻論史

特講 揚貴妃文学史研究

演習 杜詩詳註

◇ 四庫全書総目(清人文集)

◇ 中国文学批評史

◇ 陸機『文賦』研究

◇ 明清小説

◇ 「新時期文学」の諸相(言語文化部)

特研 中国語学・中国文学の諸問題

臨講 中国語学・中国文学の諸問題

宋詞研究

(東北大学)

村上 教授

○中国文芸座談会

第一二二回(平成二年一月二十八日)

曹植「洛神賦」考

漁陽時代の陳子昂

杜牧における江南時代

陸游の夢の詩について

第一二三回(平成二年三月十一日)

許地山「命命鳥」について

——仏典を手がかりとして

中国山水詩的基本美学特徴

第一二四回(平成二年四月十五日)

『孟子』指示詞の近称所有格における語用の特殊性

元稹・白居易における両新楽府の異質性

第一二五回(平成二年七月八日)

皆川淇園における歐陽脩

作為歌唱文学的詩経情詩

第一二六回(平成二年九月九日)

元稹「和季校書新題楽府十二首」製作の意図

——中唐・元和期の新楽府運動について

静永 健

詞学における記譜法の構造

——『白石道人歌曲』の旁譜を中心として

明木茂夫

石松 郁

田中 康子

坂田 慎一

桑畑 千珠代

松岡 純子

李 文初

西山 猛

清永 健

東 英寿

王 暁平

東 英寿

王 暁平

東 英寿

王 暁平

東 英寿

王 暁平

東 英寿

王 暁平

東 英寿

王 暁平

東 英寿

王 暁平

中国文学関係

学会・研究室行事

第一二七回 (平成二年十一月三日)

中国の文学と儒・俠の關係

目加田 誠

第一二八回 (平成二年十一月十一日)

『經國美談』考

若杉 邦子

徐玉諾と魯迅

秋吉 收

中国少数民族の言語について

胡 振華

○九州中国学会 (平成二年四月二十二日 於琉球大学)

元稹・白居易における両新樂府の異質性 静永 健

『孟子』指示詞の近称所有格における語用の特殊性

西山 猛

○日本中国学会 (平成二年十月二十・二十一日於駒沢大学)

詞学における記譜法の構造

——『白石道人歌曲』の旁譜を中心として

明木 茂夫

元稹「和李校書新題樂府十二首」製作の意図

——中唐・元和期の新樂府運動について

静永 健

○『中国文学論集』第十九号 (平成二年十二月)

先秦兩漢文学思想發展的特点

——兼論文学的独立与自覚非自魏晋始 張少康

作為歌唱文学的詩經情詩 王 曉平

『文心雕龍』の基本的性格其三 (完結)

——『文心雕龍』の諸子性について 甲斐 勝二

清代小説における公案と武俠 阿部 泰記

(書評) 孫玄齡著・田畑佐和子訳『中国の音楽世界』

明木 茂夫

言語学研究室

講義題目

平成二年度第一学期 (平成二年四月～九月)

特講 言語学 (統講)

早田 教授

演習 音韻論

〃

理論言語学

〃

アクセント論

〃

特研

演習 方言研究の方法 (言語文化部) 陣内 助教授

演習 言語接触と言語変化の諸問題

〃

朝鮮語概説 (留学生教育センター) 田村 助教授

平成二年度第二学期 (平成二年十月～平成三年三月)

演習 音声学 早田 教授

音韻論

〃

理論言語学実習

〃

アクセント論

〃

特研

演習 方言研究の方法 (言語文化部) 陣内 助教授

演習 言語接触と言語変化の諸問題

〃

朝鮮語学の基礎

〃

(留学生教育センター) 田村 助教授

臨講

(札幌大学) 池上 教授

(東京大学) 池上 教授

(筑波大学) 松本 教授

学会・研究室行事

○九大言語学研究室報告第十一号(一九九〇年三月)

〔論文〕

満州語文語の漢字音について

早田 輝洋

——『満文金瓶梅』を資料として

五島列島四方言における「テ形」の対照

有元 光彦

——福江島下崎山町・大津町・中央町・奈留島浦郷

タイ語の品詞についてのノート

綾部 裕子

——動詞句の観点から

日本語の反復擬態語の形態論

和田 学

日本語の間接疑問文の構文論的特徴

数量詞・不定代名詞との類似点について

——ブラジル・ポルドガル語の規則動詞の形態音韻論

高倉ルイザ章實

【金瓶梅】に見る中国語の「動詞・介語」の分化状況

——「把」、「将」の用法を中心に——馮 蘊澤

福岡市方言の疑問詞表現のアクセント規則久 保 智之

大分県朝地町方言における名詞アクセントについて

岡本 寿洋

日本における手話の語い上の変化と変異

英語特異表現の場面・状況による使いわけ

——依頼表現の場合——陣内 幸子

田川郡安宅方言の名詞アクセント

関西語台北方言の音韻体系

インドネシア語の音素体系

福岡県粕屋郡篠栗町方言のアクセント

福岡県筑後市(旧八女郡)における動詞の活用

——母音語幹動詞のラ行五段化の傾向——

若菜 京香

日本語の自・他の対応のある動詞の使役態脇

○国語学会平成二年春季大会

(平成二年五月二十七日 於明海大学)

間接疑問文と数量詞・不定代名詞との類似について

——「どうすればいいか(が)わからない」の分析——

江口 正

独文学研究室

講義題目

平成二年度第一学期

独語学

演習 Grundkurs A

オオコウチ教師

演習 Grundkurs B

〃 Sprachkurs

〃 中高ドイツ語文法

—Einführung in das Mittelhochdeutsch—

(西南学院大学) 中島 教授

独文学

演習 独文学研究法演習

〃 Moritz研究

講読 現代文学

特研 Kolloquium

演習 言語芸術の諸問題

〃 抒情詩及び短編小説

特殊講義 近代ドイツ文学における自然(Ⅱ)

特研 Kolloquium

演習 Literatur der Romanik

平成二年度第二学期

独語学

演習 Grundkurs A

〃 Grundkurs B

〃 Sprachkurs

〃 独作文

〃 初期新高ドイツ語研究

独文学

オオコウチ教師
オオコウチ教師

伊藤 教授

伊藤 教授

伊藤 教授

伊藤 教授

伊藤 教授

池田 助教授

池田 助教授

池田 助教授

池田 助教授

オオコウチ教師

オオコウチ教師

オオコウチ教師

オオコウチ教師

池田 助教授

金山 助教授

(福岡大学)

演習 Moritz研究

講読 現代文学

特殊講義 敬虔主義の文学的影響(2)

特記 Kolloquium

演習 言語芸術の諸問題

〃 抒情詩及び短編小説

特記 Kolloquium

演習 Literatur der Romanik

臨時講義 ドイツ自然主義文学・演劇

——特に日本およびオーストラリアの「自然主義・印

象主義」との比較による其の特質——

(日本大学) 清水 教授

学会・研究室行事

独文学関係

○九州大学独文学会第四回総会・研究発表会

(平成二年四月二十八日 於 九大文学部会議室)

アレゴリーの復権

小黒 康正

カロッサ『幼年時代』と『前奏曲』

村山 綾子

○日本独文学会第四十四回総会・春季研究発表会

(平成二年五月十八日・十九日 於 獨協大学)

○シュティツケル教授語学ゼミナール

(平成二年九月四日 於 九大文学部会議室)

Probleme der Schwa-Analyse
Über den Pertinenzdativ
行 重 耕 平
大 野 克 彦

○シエーネ教授講演会

(平成二年九月五日) 於 九大文学部会議室

○シエーネ教授九重ゼミナール

(平成二年九月七日) 於 九重「やまなみ荘」

Heine und Börne
Die Natur in Goethes "Wahlverwandtschaften"
岩 本 真 理 子
池 田 紘 一

○九州ドイツ文学「第四号」

(平成二年九月発行)

現代ドイツ語のウムラウトと語彙レベル
広告テキスト分析による文化比較
敬虔主義とドイツ文学
カロッサ『幼年時代』と『前奏曲』
手 重 耕 平
手 島 真 理
伊 藤 利 男
村 山 綾 子

——「鱒」のエピソードより——
ホフマンスタールの幕合劇『白く扇』について

芥川龍之介「沼」「東洋の秋」
大河内ロスヴィータヨハネス・モイ短編二編
鈴木敦典
鈴木敦典
和 記

○日本独文学会秋期研究発表会

(平成二年十月二十七日・二十八日)

於 鳥取大学教養部

石 橋 邦 俊

ユリウス・グレルの『老子』翻訳
「ブッデンブローク家の人々」と「ルネ・モーブラン」
石 橋 邦 俊

敬虔主義と抒情

「親和力」における自然

○日本独文学会西日本支部研究発表会

(平成二年十一月十六日・十七日) 於 九州産業大学

カロッサ『幼年時代』における神秘領域
テキスト・データベースによる語形頻度調査の試み
村 山 綾 子

——"unser"の格変化別形をめぐって——

ヘッセと二つの『老子』翻訳

平成二年度第一学期

英語学

演習 J. McCawley, The Syntactic Phenomena of English

鈴 木 敦 典

Jackendoff, Semantic Structure

石 橋 邦 俊

音韻論

英作文

英文学
演習 George Eliot, Adam Bede

稲 田 助 教 授

John Bunyan

Coleridge

稲 田 助 教 授

米文学

演習	Hemingway	原 口	助教
◇	Hemingway	原 口	助教
◇	H. James, <i>Daisy Miller</i> ; Stow, <i>Uncle Tom's Cabin</i>	原 口	助教
◇	Hemingway	ピユー	教師
◇	Wallace Stevens	ピユー	教師
◇	Steinbeck	ピユー	教師
◇	Salinger	小 谷	助教

英語学

演習	Semantics and Syntactic Regularity	稲 田	助教
◇	英語学概論	稲 田	助教
◇	英作文	リード	教師
◇	英会話	ピユー	教師
◇	英会話	リード	教師
◇	音声学	宮 原	教授
特講	英語学の方法	稲 田	助教
	英文学		
演習	Coleridge	園 井	教授
◇	Milton (III)	園 井	教授
◇	Ben Jonson	園 井	教授
◇	Samuel Beckett	リード	教師
演習	Practical Criticism: 19th and early 20th century poems	リード	教師

イギリス現代詩
米文学

演習	Emily Dickinson's Poems	原 口	助教
◇	Kate Chopin	原 口	助教
◇	19世紀の風俗小説	原 口	助教
◇	Carson McCullers (言語文化部)	小 谷	助教
◇	詩の理解	ピユー	教師
◇	S. Anderson, W. Faulkner	ピユー	教師
◇	Wallace Stevens	ピユー	教師

学会研究室行事

○日本英文学会第四十三回九州支部大会

(平成二年十月二十七日・二十八日)

於佐賀女子短期大学)

Swift における風刺の力とその限界

A Modest Proposal を中心に

「時」の視点からみた *Judge the Obscure*

"Fair sequence and succession"

——Richard II においてアイデンティティを構成

する幾つかの要素について—— 吉原 ゆかり

二つの *Hyperion* における Keats の詩作の可能性

「響きと怒り」の円環構造について 後藤 美映

佐藤 泰子

The Sun Also Rises

名語句からの外置について

吉田潤司

シェークスピアの不定詞

山口美樹子

肖像としての女性

野仲響子

——第三者のナレーターによる構成——

大城房美

Pierre or, the Ambiguities における「主」と「客」の關係

竹内勝徳

Hawthorne の文学における「罪」

青井格

挿入文について

岩城令子

文学科講義題目

平成二年度一学期 (平成二年四月～九月)

国語学

特講 国語史要論

迫野教授

演習 中世語研究

〃 国語学の諸問題

特研 国語史資料研究

演習 万葉集卷十

特講 日本語と朝鮮語

国文学

特講 近世小説の特徴

演習 西鶴「名残の友」

鶴井教授

藤井教授

中野教授

〃

〃

演習 滑稽本

中野教授

特研 近世文学の諸問題

特講 源氏物語

演習 平安時代仮名文の表現

〃 百人一首諺解

特研 平安時代文学の諸問題

特講 幕末文人の研究

演習 日本語学Ⅰ

〃 日本語学Ⅱ

特講 近代文学作品研究

夏目漱石・芥川龍之介

特講 心敬連歌論

臨講 古事記の研究

平成二年度第二学期 (平成二年十月～三月)

国語学

特講 国語史要論

迫野教授

演習 中世語研究

〃 国語学の諸問題

特研 国語史資料研究

演習 万葉集卷十

臨講 文法史の諸問題

国文学

特講 近世小説の特徴

演習 西鶴「名残の友」

鶴井教授

山口教授

中野教授

〃

〃

演習 滑稽本 中野 教授

特研 近世文学の諸問題 〃

特講 源氏物語 今西 助教授

演習 平安時代仮名文の表現 〃

〃 百人一首諺解 〃

特研 平安時代文学の諸問題 〃

特講 近代文学作品研究 〃

夏目漱石・芥川龍之介 (教養部) 海老井 教授

特講 心敬連歌論 (熊本女子大学) 重松 教授

講義 書道 古筆について (平安時代の書) 山田 教授

(福岡教育大学)

学会・研究室行事

国語学国文学関係

○九州大学国語国文学会 (平成二年六月三日)

語構成とアクセント 梅 崎 光

状態化形式「テイル」の意味特徴 趙 南 徳

夏目漱石「野分」について 道 端 香 苗

「濱松中納言物語」に関する一考察 藤 島 綾

能宣集について 福 田 智 子

「濱松中納言物語」の成立時期

——「狭衣物語」巻二巻頭部受容の可能性をめぐって——

後 藤 康 文

太宰治のディスクール——「晩年」の場合——

山崎 正純
接続助詞「ゲレド(モ)」の発達——上方語の場合——

坂口 至

中野 三敏

近世木活のこと

○第四十回西日本国語国文学会 (於 鹿児島大学教育学部)

平成二年九月二十九～三十日

《研究発表》

都の錦・自伝の風景 若 木 太 一

鹿児島県瀬娃町方言の語中有声化をめぐって

若 木 太 一

「竹齋」の改訂について 木 部 暢 子

「宇津保物語」巻名考 入 口 敦 志

《公開講演》 坂 本 信 道

方言と国語史 迫 野 虔 徳

代官と行脚俳諧師——俳檀史研究の一視点—— 大 内 初 夫

(九州大学関係者のみ)

○「語文研究」第六十九号 (平成二年六月)

一夫一妻制としての平安文学・補説

——近年の婚姻研究の紹介をかねて——

工 藤 重 矩

平安詩序の形式

——自謙句の確立を中心として—— 木 戸 裕 子

後鳥羽院の『狭衣物語』受容

後藤 康文

「支子文庫本勅撰和歌集抄出注」について

山田 洋嗣

『青猫』の形成

——大手拓次との關係を軸として—— 國生 雅子

一八世紀初頭の蔭隅方言における

「ノ」と「ガ」の用法 江口 泰生

○「語文研究」第七十号（平成二年十二月）

二月の子の日考

——『能宣集』諸本の詞書をめぐって——

福田 智子

『竹斎』考

近世上方言における接続助詞ケレドモの發達

入口 敦志

坂口 至

木部 暢子

○「文献探究」第二十五号（平成二年三月）

東音語存疑

大きな森の家——檀一雄の久留米時代(一)—— 岡島 昭浩

資料 山之口 獭——「文藝」への投稿作品—— 長野 秀樹

近世紀行文紹介 その二

松 下 博文

板 坂 耀子

坂 本 信道

後 藤 康文

大分県方言文献目録(3)

二階堂

整

○「文献探究」第二十六号（平成二年九月）

静子の登場

——『リッツ子・その愛』『リッツ子・その死』論——

長野 秀樹

資料 山之口 獭

——「行動」「四季」「批判」「人民文庫」「詩原」への投稿作品——

近世紀行文紹介（その四）

栗生の方言(一) あ之部こ之部 松 下 博文

板 坂 耀子

山崎時造・著 崎村弘文・監修

赤 峯 裕 子